

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800820	事業の開始年月日	平成16年5月1日
		指定年月日	平成16年5月1日
法人名	(株) 保健科学研究所		
事業所名	グループホーム 金沢けやき園		
所在地	(〒263-0042) 横浜市金沢区釜利谷東4-3-26		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の人格を尊重し、最も家庭に近い環境の中で、その人らしさを失うことなく、明るく元気に自立した生活を維持するための介護を志し、適正なサービスを提供することに努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年2月25日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点> ◇地域にとけ込んだ生活 ・利用者は地域の夏祭りに参加するほか、事業所に幼稚園・小学校の子どもたちや三味線のボランティアなどが訪れるなど、多くの交流の機会がある。 ・事業所の玄関前の広場で、おやつなどを食べていると近所の方が飛び入りで参加して、利用者とは談笑することもある。また、祭りの神輿の休憩所になるなど、地域にとけ込んだ生活を送っている。 ・夜間を想定した避難訓練は家族、町内会の方と共同して行ない、その後、反省会を行って避難誘導などについて、地域の方との役割分担を確認している。 ・事業所に入所を希望し、待機している方や家族に、事業所の行事(納涼祭やクリスマスなど)を知らせて、参加を呼び掛けている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇家族への事業所や利用者の情報提供 ・事業所情報として「金沢けやき通信」のほかに、担当者が利用者の様子(健康、食事、排せつ、入浴等)を手書きした報告書を毎月家族に送っている。 ◇利用者への外出機会を増やす取り組み ・散歩点検簿があり、利用者の日々の外出機会を増やすほか、利用者の希望に沿って、大船フラワーセンター 横須賀菖蒲園、港の見える公園などへのドライブ遠足も行っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム金沢けやき園
ユニット名	かえでユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関に張り出し、誰もがみれるようになっている。また、朝の申し送りに毎日唱和することで理念を確認し、業務に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所理念の「普通の家庭生活を地域の方々や職員とともに、楽しく過ごしていただけるように努めます」を玄関に掲げている。 ・職員は理念を申し送り時に唱和しケアに活かしている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りではお神輿の休憩所として駐車場を解放したり、納涼祭には、町内会の方を招待したり又、町内の行事にも参加させていただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の回覧版から地域の情報を得て、地域の夏祭りに参加するほか、事業所の納涼祭に近所の方を招いている。 ・近隣の幼稚園児や小学生、三味線演奏ボランティアの来訪があり、利用者が交流を楽しんでいる。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の婦人会の皆様に、見学に来ていただき、認知症について、認知症の人の理解や接し方についてお話する機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目標とし、運営推進会議を行なっている。避難訓練の際の誘導での意見や備蓄品の工夫など、遠足や行事に対しての意見などいただき、サービスの向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・25年度の運営推進会議は6回開催を目標としていたが、都合により4回となった。 ・議題は現況・活動報告のほかに、避難訓練や地域行事などの意見交換がされている。 	運営推進会議は、予定通り年6回の開催を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の後は市長村に書類を提出し、事業所の運営や取組みを市長村に伝えている。金沢区徘徊ネットワーク事業の会議などにも参加し、意見交換を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢区の高齢障害支援課に運営推進会議の議事録を届けて、意見交換や助言を受けている。 ・横浜市や金沢区の介護関係研修会に参加している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜まで施錠せず、開放している。内部研修にて身体拘束については研修を行っている。	・日ごろの会議や園内研修でも「身体的拘束その他の行動制限を行わないこと」を確認し実践している。 ・ユニットの戸は施錠し職員が開閉しているが、玄関は昼間オープンである。	職員の見守り体制を検討する中で、ユニットの戸の日中開錠の検討を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する内部研修を行っており、ユニットの中でも、広く知識が持てるようにしている。スタッフ同士が見過ごすことのないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を受けている方が実際におられ、推進会議のテーマとしても取り上げたり、職員の研修にもとりあげた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居のご相談を頂いた時から、不安や疑問に対して繰り返し説明を重ね理解や納得を頂いて、契約・解約に結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来園された時等、利用者様と一緒に話をする時間をつくり、意見交換を行っている。	・家族の来訪時に意見・要望を聞き、内容は会議等に報告し、必要なことは運営に反映させている。事例としては、食事で「利用者が毎日和食でなくパン食も希望している」との意見があり、毎週水曜日の昼食をパン食とした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所での職員の意見や要望を月に1度の管理者会議で代表者に伝える。年末年始の特別手当。インフルエンザ予防接種の職員の料金負担の免除など。反映されている。	・事業所内は、職員は会議のときは勿論のこと、いつでも意見が言える雰囲気になっている。 ・誤薬防止の為の職員意見を受けて、鍵つき、個人別、服用時別、服用後の空き袋点検などの収納箱・棚を作った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設当時の職員も、在職しており、20代～60代後半の職員が勤務している。定期的にヒヤリングを行い、協力仕合ながら働きやすい職場環境を整えていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画表があり、各マニュアルに沿って研修をおこなっている。また、個々のスキルアップのために外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が望んでいる生活スタイルや不安を傾聴し、ケアに加わるスタッフ全員の情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話を傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や、スタッフ全員が事前の情報に基づき理解し、その時に必要な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に話しやすい環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な変化でもご家族と情報を共有することで、ご家族様と一緒に支えて行けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交友の関係や、場所を大切にし、面会、手紙、電話、外出などを通して関係継続の支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が希望する野球場見学や墓参に行く方への付き添い支援をしている。 ・利用者が逢いたい知人・親戚への連絡を家族にお願いするなど、知人関係の継続に向けて支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態や体調を把握し、考慮した上で、利用者様同士の共同生活の場を作り共に楽しめるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様、ご家族様が必要とされる限り相談や支援に努めている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	相談や、希望が言いやすい環境づくりを行い、可能な限り叶えられるように努めている。	・入居時に利用者の生活歴・意向などを記録し、その後得た新たな情報を会議等で報告し、職員が共有している。 ・コミュニケーションが困難な方には居室や入浴時に時間をかけて把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴、生活環境等をご本人、ご家族様からうかがったり、家庭訪問をさせて頂き、ホームでも家庭の延長に近い環境で過ごして頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表や、ADL表の活用や介護日誌などの記録・申し送りを活用して、一人ひとりの一日の過ごし方・心身の状態などの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の入居者様の様子を個別記録に記入しカンファレンス等で話しあい介護計画に役立っている。	・介護計画書作成前に利用者・家族から希望を聞き、その後、医師の助言を参考に居室担当者、計画担当者、ユニットリーダー、管理者の職員がカンファレンスで意見を交わして介護計画書を作っている。見直しは6か月毎に行っているが、状態の変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にカンファレンスを開き介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者やスタッフは常に利用者様一人ひとりにあったサービスを考えており、個別ケアも行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学生の皆さんとの交流をはかったり、町内会の行事にも参加させていただいたりして地域資源を活用しながら日々の生活を楽しんでいただけるように支援を行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には、ご家族様と話しあい希望を大切に、かかりつけ医との情報を共有することで適切な医療を受けていただけるように支援を行なっている。	・利用者全員が月2回の訪問診療の医師に受診しているが、昔からのかかりつけ医に行く利用者もいる。 ・歯科医は毎週1回往診している ・管理者が看護師であり医師との連絡は密にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師に来て頂き、1週間の体調の変化をつたえ、ケアのポイントなど助言や指導を受け支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時に医師、看護師に情報を伝え、急な体調の変化の場合でも連携がとれるようにしている。入院となった時も、連絡を密にとり早期退院にむけての情報を共有し話し合いを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の段階から、重度化した場合や終末期のあり方についてホームとして出来ること出来ないことを説明し、共有しながらチームでの支援を行なっている。	・入居時に利用者・家族に終末期ケアをしない旨説明をしているが、利用者の変化につれ、家族の要望を受け、事業所としてできる範囲で終末期対応をしている。最後は医師の判断により病院に案内している。	・入居者の重度化が進むにつれて、愛着のあるホームでのターミナルケアを望む声は、本人・家族からの自然の願いです。社会的にも施設に、その対応を期待していますので、是非検討を望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、全ての職員が行なえるように、定期的に内部研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間を想定した非難訓練を、ご家族様、町内会の皆様と一緒にこなっている。火災や災害に備えてのマニュアルがあり、備蓄品の点検など行なっている。町内の防災訓練にも参加している。	・年2回消防署の協力を得て、避難誘導・緊急時の連絡方法などの防災訓練を行い、近所の方も参加している。 ・長期保存可能な米・飲料水・缶詰など1週間程度の備蓄がある。保存期限更新も点検し、取り替えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部でのマニュアルを定め、定期的に接遇などの研修を行い、人格の尊重とプライバシーの確保につとめている。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場にたつての対応を心がけ、管理者は日常業務の中で職員を指導している。 法人での接遇研修を受け、利用者一人ひとりの性格・心身状況に応じた対応をしている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、洋服を選ぶ場面や遠足の外出先なども利用者様の希望を伺い選択ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、その日の天候や、体調・ご本人様の希望を取り入れて休憩を多く取りながら調整し支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びも、楽しみながら選択できるようにスタッフと行なっている。また誕生会や行事などの特別な日には、メイクをしたり、マニキュアなどをつけ、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや、食器拭きを利用者様様と一緒にいき、味付けなどの感想や、助言をいただいている。また、毎週水曜日のお昼を皆さんの要望にそってパン食を提供している。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者と職員が一つのテーブルを囲み、個々のペースや状況に応じて介助し会話を楽しみながら食事をしている。 誕生日にはその方の希望のメニューを取り入れている。 食器拭きなど後片付けを職員と一緒にしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をチェック記録することで、健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは、ご本人の力量に応じて、出来ない部分をスタッフが協力歯科医師の助言や指導を頂きながら、口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に声掛けを行い必要に応じてトイレ誘導を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の自立を目標に排泄表の活用や利用者の様子から声掛けをしている。オムツ使用者はいない。 ・夜間も職員が声掛けをして、トイレ誘導をしている。現状顕著な改善事例はない。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や、乳製品の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は行えていないが、出来る限り利用者様の希望を取り入れゆっくりと入浴して頂けるよう努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望に沿い、週2～4回入浴している。 ・入浴を好まない利用者には日時を変えたり、家族の面会時にあわせたりしている。 ・しょうぶ湯、ゆず湯のほか入浴剤も使い、入浴が楽しめるように配慮している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを理解し、個の空間も休息の場や安眠の大切な場所として支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬を管理し、用量や、用法について理解をして、服薬の支援を行い、変化等の気づきと対応が出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や役割を理解し、日々のレクリエーションに取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園等に散歩に行き、遠足やドライブの企画を立てて支援を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の公園への散歩に車椅子の方も一緒に出掛け、季節感を味わうようにしている。 ・車で外食や大船フラワーセンター、海浜公園、夜の横浜イルミネーション見物、野球場などに出かけている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り、外出の際はスタッフが付き添い、ご本人様で出来るように支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用して頂き、絵手紙を送付するなど、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、手作りカレンダーを利用者さまと作成し、リビングに貼るなどし、季節を感じていただけるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの壁や廊下には季節や行事に因んだ飾りや写真、習字、利用者と職員合作のちぎり絵が貼られている。 ・採光も十分ある。畳の部屋もあり、利用者はテレビ・読書や会話を楽しんでいる。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、ソファ等設備し自然に歌を唄ったりテレビを観ながら談話ができるように環境を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースは入居者様とご家族様が相談され、自由に、居心地よく過ごして頂けるように工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコン・クローゼットが設置されている。 ・一人ひとりが馴染みのベッド、椅子、箆笥などを持ち込んでいる。 ・写真、装飾などそれぞれ好みで配置し、楽器、パソコンなどを楽しむ利用者もいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで広めのスペースを取っており廊下には手すりが付いていて、安全面でも気をつけるように工夫をしている。		

事業所名	グループホーム金沢けやき園
ユニット名	さくらユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りに唱和することで確認、理解し毎日の業務に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りではお神輿の休憩所として駐車場を解放したり、納涼祭には、町内会の方を招待したり又、町内の行事にも参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の婦人会の皆様に、見学に来ていただき、認知症について、認知症の人の理解や接し方についてお話する機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目標とし、運営推進会議を行っている。避難訓練の際の誘導での意見や備蓄品の工夫など、遠足や行事に対しての意見などいただき、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の後は市長村に書類を提出し、事業所の運営や取組みを市長村に伝えている。金沢区徘徊ネットワーク事業の会議などにも参加し、意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜まで施錠せず、開放している。内部研修にて身体拘束については研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する内部研修を行っており、ユニットの中でも、広く知識が持てるようにしている。スタッフ同士が見過ごすことのないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を受けている方が実際におられ、推進会議のテーマとしても取り上げたり、職員の研修にもとりあげた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居のご相談を頂いた時から、不安や疑問に対して繰り返し説明を重ね理解や納得を頂いて、契約・解約に結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来園された時等、利用者様と一緒に話をする時間をつくり、意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所での職員の意見や要望を月に1度の管理者会議で代表者に伝える。年末年始の特別手当。インフルエンザ予防接種の職員の料金負担の免除など。反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設当時からの職員も、在職しており、20代～60代後半の職員が勤務している。定期的にヒヤリングを行い、協力仕合ながら働きやすい職場環境を整えていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画表があり、各マニュアルに沿って研修をおこなっている。また、個々のスキルアップのために外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同グループでの職員、入居者様の行き来を行い交流を図っている。代表者・管理者は月に1度の管理者会議を開き、事例検討や各施設での抱える問題点について話し合い、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が望んでいる生活スタイルや不安を傾聴し、ケアに加わるスタッフ全員の情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話を傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や、スタッフ全員が事前の情報を基に理解し、その時に必要な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に話しやすい環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な変化でもご家族と情報を共有することで、ご家族様と一緒に支えて行けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交友の関係や、場所を大切にし、面会、手紙、電話、外出などを通して関係継続の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態や体調を把握し、考慮した上で、利用者様同士の共同生活の場を作り共に楽しめるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様、ご家族様が必要とされる限り相談や支援に努めている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	相談や、希望が言いやすい環境づくりを行い、可能な限り叶えられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴、生活環境等をご本人、ご家族様からうかがったり、家庭訪問をさせて頂き、ホームでも家庭の延長に近い環境で過ごして頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表や、ADL表の活用や介護日誌などの記録・申し送りを活用して、一人ひとりの一日の過ごし方・心身の状態などの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の入居者様の様子を個別記録に記入しカンファレンス等で話しあい介護計画に役立っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的カンファレンスを開き介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者やスタッフは常に利用者様一人ひとりにあつたサービスを考えており、個別ケアも行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学生の皆さんとの交流をはかったり、町内会の行事にも参加させていただいたりして地域資源を活用しながら日々の生活を楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診の際には、ご家族様と話しあい希望を大切に、かかりつけ医との情報を共有することで適切な医療を受けていただけるよう支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師に来て頂き、1週間の体調の変化をつたえ、ケアのポイントなど助言や指導を受け支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時に医師、看護師に情報を伝え、急な体調の変化の場合でも連携がとれるようにしている。入院となった時も、連絡を密にとり早期退院にむけての情報を共有し話し合いを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の段階から、重度化した場合や終末期のあり方についてホームとして出来ること出来ないことを説明し、共有しながらチームでの支援を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、全ての職員が行なえるように、定期的に内部研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間を想定した非難訓練を、ご家族様、町内会の皆様と一緒にしている。火災や災害に備えてのマニュアルがあり、備蓄品の点検など行なっている。町内の防災訓練にも参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部でのマニュアルを定め、定期的に接遇などの研修を行い、人格の尊重とプライバシーの確保につとめている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、洋服を選ぶ場面や遠足の外出先なども利用者様の希望を伺い選択ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、その日の天候や、体調・ご本人様の希望を取り入れて休憩を多く取りながら調整し支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びも、楽しみながら選択できるようにスタッフと行なっている。また誕生日や行事などの特別な日には、メイクをしたり、マニキュアなどをつけ、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや、食器拭きを利用者様と一緒にし、味付けなどの感想や、助言をいただいている。また、毎週水曜日のお昼を皆さんの要望にそってパン食を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をチェック記録することで、健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは、ご本人の力量に応じて、出来ない部分をスタッフが協力歯科医師の助言や指導を頂きながら、口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に声掛けを行い必要に応じてトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や、乳製品の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は行えていないが、出来る限り利用者様の希望を取り入れゆくりと入浴して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを理解し、個の空間も休息の場や安眠の大切な場所として支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬を管理し、用量や、用法について理解をして、服薬の支援を行い、変化等の気づきと対応が出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や役割を理解し、日々のレクリエーションに取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園等に散歩に行き、遠足やドライブの企画を立てて支援を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り、外出の際はスタッフが付き添い、ご本人様で出来るように支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用して頂き、絵手紙を送付するなど、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、手作りカレンダーを利用者さまと作成し、リビングに貼るなどし、季節を感じていただけるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、ソファ等設備し自然に歌を唄ったりテレビを観ながら談話ができるように環境を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースは入居者様とご家族様が相談され、自由に、居心地よく過ごして頂けるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで広めのスペースを取っており廊下には手すりが付いていて、安全面でも気をつけるように工夫をしている。		

事業所名	グループホーム金沢けやき園
ユニット名	つばきユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りに唱和することで確認、理解し毎日の業務に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りではお神輿の休憩所として駐車場を解放したり、納涼祭には、町内会の方を招待したり又、町内の行事にも参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の婦人会の皆様に、見学に来ていただき、認知症について、認知症の人の理解や接し方についてお話する機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目標とし、運営推進会議を行なっている。避難訓練の際の誘導での意見や備蓄品の工夫など、遠足や行事に対しての意見などいただき、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の後は市長村に書類を提出し、事業所の運営や取り組みを市長村に伝えている。金沢区徘徊ネットワーク事業の会議などにも参加し、意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜まで施錠せず、開放している。内部研修にて身体拘束については研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する内部研修を行っており、ユニットの中でも、広く知識が持てるようにしている。スタッフ同士が見過ごすことのないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を受けている方が実際におられ、推進会議のテーマとしても取り上げたり、職員の研修にもとりあげた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居のご相談を頂いた時から、不安や疑問に対して繰り返し説明を重ね理解や納得を頂いて、契約・解約に結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来園された時等、利用者様と一緒に話をする時間をつくり、意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所での職員の意見や要望を月に1度の管理者会議で代表者に伝える。年末年始の特別手当。インフルエンザ予防接種の職員の料金負担の免除など。反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設当時からの職員も、在職しており、20代～60代後半の職員が勤務している。定期的にヒヤリングを行い、協力しながら働きやすい職場環境を整えていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画表があり、各マニュアルに沿って研修をおこなっている。また、個々のスキルアップのために外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同グループでの職員、入居者様の行き来を行い交流を図っている。代表者・管理者は月に1度の管理者会議を開き、事例検討や各施設での抱える問題点について話し合い、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が望んでいる生活スタイルや不安を傾聴し、ケアに加わるスタッフ全員の情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話を傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や、スタッフ全員が事前の情報を基に理解し、その時に必要な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に話しやすい環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な変化でもご家族と情報を共有することで、ご家族様と一緒に支えて行けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交友の関係や、場所を大切にし、面会、手紙、電話、外出などを通して関係継続の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態や体調を把握し、考慮した上で、利用者様同士の共同生活の場を作り共に楽しめるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様、ご家族様が必要とされる限り相談や支援に努めている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	相談や、希望が言いやすい環境づくりをを行い、可能な限り叶えられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴、生活環境等をご本人、ご家族様からうかがったり、家庭訪問をさせて頂き、ホームでも家庭の延長に近い環境で過ごして頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表や、ADL表の活用や介護日誌などの記録・申し送りを活用して、一人ひとりの一日の過ごし方・心身の状態などの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の入居者様の様子を個別記録に記入しカンファレンス等で話しあい介護計画に役立っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的カンファレンスを開き介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者やスタッフは常に利用者様一人ひとりにあったサービスを考え、個別ケアも行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学生の皆さんとの交流をはかったり、町内会の行事にも参加させていただいたりして地域資源を活用しながら日々の生活を楽しんでいたできるように支援を行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には、ご家族様と話しあい希望を大切に、かかりつけ医との情報を共有することで適切な医療を受けていただけるように支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師に来て頂き、1週間の体調の変化をつたえ、ケアのポイントなど助言や指導を受け支援に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時に医師、看護師に情報を伝え、急な体調の変化の場合でも連携がとれるようにしている。入院となった時も、連絡を密にとり早期退院にむけての情報を共有し話し合いを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談の段階から、重度化した場合や終末期のあり方についてホームとして出来ること出来ないことを説明し、共有しながらチームでの支援を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、全ての職員が行なえるように、定期的に内部研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間を想定した非難訓練を、ご家族様、町内会の皆様と一緒にしている。火災や災害に備えてのマニュアルがあり、備蓄品の点検など行なっている。町内の防災訓練にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部でのマニュアルを定め、定期的に接遇などの研修を行い、人格の尊重とプライバシーの確保につとめている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、洋服を選ぶ場面や遠足の外出先なども利用者様の希望を伺い選択ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、その日の天候や、体調・ご本人様の希望を取り入れて休憩を多く取りながら調整し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びも、楽しみながら選択できるようにスタッフと行っている。また誕生会や行事などの特別な日には、メイクをしたり、マニキュアなどをつけ、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや、食器拭きを利用者様と一緒にし、味付けなどの感想や、助言をいただいている。また、毎週水曜日のお昼を皆さんの要望にそってパン食を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をチェック記録することで、健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは、ご本人の力量に応じて、出来ない部分をスタッフが協力歯科医師の助言や指導を頂きながら、口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に声掛けを行い必要に応じてトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や、乳製品の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は行えていないが、出来る限り利用者様の希望を取り入れゆっくりと入浴して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを理解し、個の空間も休息の場や安眠の大切な場所として支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬を管理し、用量や、用法について理解をして、服薬の支援を行い、変化等の気づきと対応が出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や役割を理解し、日々のレクリエーションに取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園等に散歩に行き、遠足やドライブの企画を立てて支援を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り、外出の際はスタッフが付き添い、ご本人様で出来るように支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用して頂き、絵手紙を送付するなど、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、手作りカレンダーを利用者さまと作成し、リビングに貼るなどし、季節を感じていただけるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、ソファ等設備し自然に歌を唄ったりテレビを観ながら談話ができるように環境を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースは入居者様とご家族様が相談され、自由に、居心地よく過ごして頂けるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで広めのスペースを取っており廊下には手すりが付いていて、安全面でも気をつけるように工夫をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム金沢けやき園

作成日 平成26年4月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	年に2回・納涼祭とクリスマス会にご家族様も参加していただいているが、家族会がなく、意見の交換などができていない。	家族会の発足	年に4回位、ご家族様と、行事への参加とは別にスタッフやご家族様同士の意見の交流や勉強会などの場を設ける	6か月
2	5	各ユニットの入り口に施錠がされている。	施錠の解放	利用者様の状態を把握し、職員の見守りや情報を共有することで施錠の解放を行っていく。	6か月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。